

平成24年度 札幌市研究開発事業「小中連携」に係る実践研究

1. 研究の内容・方法

研究推進校として、小学校3校と中学校1校を指定するとともに、併せて、下記の委員構成による「札幌市小中連携に係る実践研究推進委員会」を設置し、学習指導や教職員研修及び地域との連携など、「小中連携」についての実践的研究を行う。

2. 委員構成

委員長	札幌市立真栄中学校	校長	蛭名 嘉津夫
委員	札幌市立真栄小学校	校長	成瀬 茂
	札幌市立美しが丘小学校	校長	福家 一俊
	札幌市立美しが丘緑小学校	校長	角野 誠
	札幌市立真栄中学校	教諭	入谷 丈貴
	札幌市立真栄小学校	教諭	辻 知行
	札幌市立美しが丘小学校	教諭	阿部 剛久
	札幌市立美しが丘緑小学校	教諭	西村 裕子
事務局	札幌市教育委員会	指導主事	和泉明一・大道弘孝・村元秀之

3. 研究推進会議

(1) 第1回研究推進会議

- ①日時 平成24年7月11日(水) 16:00~17:00
- ②会場 札幌市教育委員会 6階 A会議室
- ③内容 事業概要について
 - ・研究の進め方について、研究計画や取組などの交流、実施上の諸課題について

(2) 第2回研究推進会議

- ①日時 平成24年9月18日(火) 15:45~16:45
- ②会場 市立真栄中学校 1階PTA会議室
- ③内容
 - ・研究計画や取組などの交流、実施上の諸課題について、研究の成果、検証のまとめについて

(3) 第3回研究推進会議

- ①日時 平成24年12月13日(木) 16:00~17:00
- ②会場 市立真栄中学校 1階PTA会議室
- ③内容
 - ・次年度の研究計画や取組などの検討、実施上の諸課題について、研究の成果、検証のまとめについて

(4) 第4回研究推進会議

- ①日 時 平成25年2月27日(水) 15:30~16:30
- ②会 場 札幌市教育委員会 4階教育委員室
- ③内 容 ・実施上の諸課題について、研究の成果、検証のまとめについて、次年度の研究計画や取組などの検討

4. 平成24年度の主な実践内容

(1) 美しが丘小学校への中学校からの出前授業

- ①日 時 平成24年8月22日(火) 13:30~15:00
- ②会 場 美しが丘小学校
- ③内 容 英語・体育の授業
- ④参加者 6年生児童

(2) 真栄中学校総合活動日の小学校訪問

- ①日 時 平成24年9月4日(火) 9:00~12:30
- ②会 場 真栄小学校、美しが丘小学校、美しが丘緑小学校
- ③内 容 真栄中学校3年生による授業体験
- ④参加者 真栄中学校3年生と6年生児童

(3) 小中合同道徳講演会

- ①日 時 平成24年9月18日(火) 13:30~15:00
- ②会 場 真栄中学校
- ③内 容 道徳講演会
- ④参加者 真栄中学校生徒、各小学校6年生児童

(4) 各小学校同窓会入会式

- ①日 時 平成25年3月1日(金)~3月5日(火)
- ②会 場 各小学校
- ③内 容 真栄中学校生徒会による中学校説明、合唱部による演奏など
- ④参加者 各小学校6年生児童

5. 平成24年度のその他の連携内容

- (1) 美しが丘緑小学校の真栄中学校合唱コンクールの見学
- (2) 真栄小学校との特別支援学級交流
- (3) 真栄小学校三二児童会館とまちの灯り事業での交流
- (4) 真栄中学校への授業参観と情報交流(小中連絡会)
- (5) 各小学校への授業参観と6年生へ春休みの生活記録表の配布

6 小中連携の取組を振り返る

交流の準備

小学校、中学校それぞれの教員がこの取組の必要性を感じながらも、今までなかなか実行に移せなかった現実がある。**その理由**として…

◆それぞれの学校で行事の時期（忙しい時期）がずれていたりするので、時間の確保が大変…

◆同じ目的・意識をもって取り組むことが難しい…

◆業務が多く、時間的なゆとりがない…

◆連絡を取り合いながらの日程調整等が困難…

◆効果の予想がつかず、不安…、大変…
腰が重くなっている…

◆やらなければいけないと思いつつも、何から手をつけて良いかはっきりしない…

逆に、これらを解消することができれば、小中連携の取組が**実行可能**であると言える。
そこで、これからの取組として必要なことを以下にまとめてみた。

◇小学校と中学校の違いを理解する！

- ・校務も含め、日課（生活時間帯や放課後の活動内容等）、行事など。

◇組織（対応窓口）をしっかりと作る！

- ・長く続けて取り組んでいけることを伝統として残していく。
- ・行事予定を考えながら、単発で協力できることを考えていく。

◇具体的な問題を整理する！

- ・どこの学校に誰が訪問するのか。
- ・児童生徒の移動がある場合の注意。
- ・時間をどのように調整するのか。

◇成果と課題を共有する！

- ・それぞれの活動内容を振り返り、考え、その長短を理解し、短所を克服していくこと。

以上の4点が重要であると考えられるが、いずれにせよ、教員の意識が大切な問題で、なぜ今、取り組む必要があるのかをしっかりと理解する必要がある。「誰かがやるだろう」という意識を取り払い、組織を中心に、協力していく姿勢を作っていく必要がある。

児童生徒の変化

児童生徒は、小中連携を通して、小学生が中学生に、中学生が小学生に、よい影響を与えるだけでなく、**自分ごと**としてとらえるようになる。

小学校では…、

◆中学校へのイメージ作りが容易になる。

- ・中学校での活動を把握することにより、自分がどのような中学生になっていけるのかを一層理解できる。
- ・部活動や授業内容、教科書の重さなど、より具体的なイメージももつことができる。
- ・中学校生活に対する不安感を取り除く大きなポイント！



目標



目標

中学校では…、

◆中学生として、しっかりした自覚の獲得ができる。

- ・小学生や小学校の先生方に成長した姿を説明したり見せたりすることで、自分の成長を、より実感できる。
- ・中学校で学ぶ意義の再確認！

継続性のある取組にするために

単発的に行われる取組のみでは、小中連携がイベント化してしまう。関係校に**根付く取組**にしなければならない。

学校の教育には、多様な期待が寄せられているが…

◆小中連携の視点で、自校の現在の取組を見直してみませんか？

小中連携は、特定の学年の教員だけが、負担感を克服しながら行うものではないはずです。児童生徒の育ちを支える、全ての教員で、学校の教育活動全体を通して行うことが大切です。

例) これまで行われていた小学校の同窓会入会式⇔**中学生参加で活性化**

学校種の壁は乗り越えることができないのか？

◆小中連携を行う学校どうしが、共有できるテーマを作りませんか？

小中連携は、期待するだけの依存しあう教育活動ではないはずです。関係する小中学校全ての教員が、共通の目標やテーマを掲げて行うことが大切です。

例) 目指す児童生徒の姿を、わかりやすい言葉で示す⇔**目的意識の共有**

7 研究推進校アンケートから

(1) アンケートの内容

真栄中学校、真栄小学校、美しが丘小学校、美しが丘緑小学校の4校で、教員に14項目のアンケートを実施した。項目は以下の通りである。

- ① れまでの取組で、小学校・中学校と連携した取組を行ってきましたが知っていましたか？
- ② 「中一ギャップ」などという言葉が話題として挙げられている最近ですが、このような問題を解決する上で、小学校と中学校が連携して取り組む必要があると思いますか？
- ③ ②でNOと答えた理由を書いてください。
- ④ 今後、どのような取組をしてみたいですか？
- ⑤ 今後、どのような取組ができそうですか？
- ⑥ 小中連携の取組に、何を期待しますか？
- ⑦ 中学校について、見てみたい活動はどのようなことですか？
- ⑧ 中学校の先生に、聞いてみたいことは何ですか？
- ⑨ 小中連携の取組が、小学校にとって効果的なことは、どのようなところですか？
- ⑩ 小学校について、見てみたい活動はどのようなことですか？
- ⑪ 小学校の先生に、聞いてみたいことは何ですか？
- ⑫ 小中連携の取組が、中学校にとって効果的なことは、どのようなところですか？
- ⑬ 小中連携をする中で、「困難なところ」「抵抗感」がありましたら、お書きください。
- ⑭ 小中連携に関わり、どのようなことでもよいのでお書きください（自由記述）。

(2) 各校アンケート結果の考察

真栄小学校

◆子どもたちの様子について

- ・今年度、道徳の講演会に参加させていただいたことや、特別支援学級の交流活動などを通して、「中学校への進学」ということが意識できているようである。ただし、中学校の活動に対する断片的な知識しかもち合わせておらず、いくらかの不安を持っている。今後解消できるように働きかけたい。

◆教員の意識について

- ・小中連携の活動についてはほぼ全員肯定的な考えをもっている。もっともっと連携を深めながら活動を進めていくことで、子どもたちが抱えている様々な問題を解決することができるだろうと考えている。具体的な方法については、「もっといろいろやりたいのだが、(校種の違いによって時間なども合わず) 連携が図りにくい。
- ・「中学校の様子がわからないので、もっと知りたい。そうすれば連携もとりやすい」という意見もみられ、様子がわからないことが取組に対するハードルを上げているようである。

◆次年度以降の取組として

- ①お互いの学校間の取組のねらいや内容について理解する（教師サイド）。
- ②互いの校種間の違いを理解し、小学校と中学校の敷居をもっと下げること（教師、児童生徒）。
- ③一緒に何かをする、という機会を増やして自然に交流ができるような場面を設ける（児童生徒）。

美しが丘小学校

◆子どもたちの様子について

- ・小学校にとっては、中学校の状況を事前に肌で感じることでできる機会となった。
- ・中学校の先生による出前授業では、学習に関する子どもたちの期待感が増すことができたし、今後実施される同窓会入会式の先輩からの部活動説明においては、見通しの立たない不安が随分と解消されると思われる。

◆教員の意識について

- ・小学生の中学校への体験入学、授業・部活動の参観を求める声が多くあり、中学校の様子をさらに知らせていくことが大切であるという意見が多かった。
- ・中学生にとっては、小学校の授業参観と言うよりは、「職業体験」という形で、小学校での奉仕活動のような取組を今後も継続できればいいと考えている。

◆次年度以降の取組として、

- ①一部でしか活動内容を理解していないので、職場で周知していくこと。
- ②小学校、中学校の先生方における実施目的の共通理解と、そのねらいの明確化・具体化を細やかに図ること。

美しが丘緑小学校

◆子どもたちの様子について

- ・講演会や合唱コンクールに参加したことにより、場に応じた節度ある聞き方ができるようになった。また、以前よりも、中学校に対する興味関心が増し、中学校に対する質問が増えた。言葉遣いについても、意識し始めるといった変化がみられるようになった。

◆教員の意識について

- ・小学校のうちに最低限身に付けるべきことや、中学校1年生の1学期の指導で苦労されていることなど、中学校の先生方の思いを知りたいと思っている教員が多い。中学校との授業交流や部活動見学のニーズが高い。
- ・日程調整の難しさと、継続して取り組むことの難しさが課題としてあげられる。

◆次年度以降のポイントとして

- ①教師間の交流を増やし、児童生徒を9年間で育てるという意識をもつこと、それによって小学校における到達目標を明らかにしていくこと。

- ②児童生徒間の交流によって、児童は中学校生活についての見通しをもち、不安感を安心感に変えることが、中1ギャップを軽減させることにつながる。

真栄中学校

◆子どもたちの様子について

- ・中学生としての自覚がより芽生えることがわかった。小学生、あるいは、小学校時代にお世話になった先生方に、成長した姿を見せられる機会にもなっている。
- ・合唱コンクールの取組が、真栄中学校の「顔」であることをより一層自覚できる場面となった。

◆教員の意識について

- ・多くの先生方が、この取組の必要性を感じていることは事実であるが、時間的な余裕のなさや、何かから取り組んで良いかわからないというのが現状である。また、誰がどんなことに取り組んでいるのかははっきりしておらず、取り組むための組織や体制が整っていない。

◆次年度以降のポイントとして

- ①組織をしっかりと作り、継続的に取り組めることがどんなことかを模索していくこと。
- ②校種の違いによる様々な違いを理解すること。
- ③取組による長所短所を理解し、より中学校への進学を円滑にできるように考えていく。

8 成果と課題～今後の方向性

成果と課題については、上記したことである。できることから一つずつ取り組んでいくことで、想定されていた困難さが軽減されていく。

今後の方向性として、9年間を通してどのような子どもに育てるかというところにポイントがあると思われる。より多くの大人が子どもを育てるという意識をもち、小学校と中学校で一本筋の通った目指す児童像・生徒像をつくっていくことで、さまざまな問題の解決の糸口になるのではないだろうか。モラルの低下、学習に対する意識付け、中1ギャップの解消等、多くの課題が現実問題として挙げられるが、それらの解決に少しでも取り組んでいくことができればと思う。

研究推進委員からは、

- ・今までなにげなく行ってきたことが「小中連携」というフィルターを通して見直すことで、意義や工夫改善の方向性に気付かされた。
- ・同窓会入会式で、「先輩の中学生の説明を真剣に聴く態度は、普段以上で、教師の十の説明より先輩の一の説明の効果に感動した。」

…という声があった。また、通常行われる6年生の「引き継ぎ」だけでは、児童生徒理解に対し物足りなさを小中の先生が感じていると思うが、この小中連携を進めることで、「子どものための、小・中学校をつくっていく必要性を再確認した。」という実感をすべての教員に広げていきたい。